

今年の金山杉サミットは「体験型」 子どもたちが木製品と技術に触れる

「体験」をテーマとした第10回金山杉サミットが11月9日～10日、認定こども園めぐたまを会場に開催されました。参加した子どもたちは、木琴と木製ジャングルジムを製作し、木の手触りや香りなどを楽しんでいました。また、ジャングルジムは柱に貫を差し、そこにくさびを打って固定するというまさに伝統工法。金山杉の素晴らしさと金山職人の技術に触れることができました。



▲「こんなに登っても壊れない！」と身をもって強度を実感

カネカがグッドデザイン賞 一貫した生産システムが評価

㈱カネカのセミオーダー住宅「モデルプラン」が、グッドデザイン賞2019を受賞しました。モデルプランは、樹齢100年を超える金山杉を化粧構造材に使用。高いデザイン性と「小さくつくって大きくつかう」とのコンセプトも評価されました。また、自社山林の木材を使用するため、高クオリティ低コストを実現しています。川崎恭平社長は「金山町、金山杉を広く発信していく」と話していました。



▲自社山林より伐採を行うため自由な寸法の使用が可能だ

▼美杉コーラスが見事なハーモニーの4曲を披露した



芸術の秋を彩る—— 芸術文化協会舞台発表会が盛大に

39回目を迎える町芸術文化協会舞台発表会が11月9日、中央公民館大ホールで開かれ、200名を超える来場者が、踊りや民謡などを楽しみました。オープニングは3年連続で柳原番楽。神々しい舞いに続けて、舞の会や千川楽栄会、金山歌ノ会など9団体が、舞台に百花を添えました。また11月の期間中、俳句やパッチワーク、写真など加入団体の作品が町内各会場に展示され、芸術の秋を彩りました。

▼壇上で表彰を受ける村松さん。町の柔道界の発展に貢献



金山町柔道スポ少で指導育成に貢献 村松さんが日本スポーツ少年団顕彰

11月9日、山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会が東京第一ホテル鶴岡を会場に開催され、式典で村松寛司さん（七日町）が日本スポーツ少年団顕彰を受賞されました。村松さんは永年にわたり、金山町柔道スポーツ少年団で指導・育成に貢献し、顕著な功績をおさめたことが高く評価されました。おめでとうございます。今後の活躍をお祈りします。



1_鈴木町長、柴田議長、山形新聞社斎藤敏広最北総支社長らが記念植樹 2_子どもたちもお父さんと協力して植樹作業 3_谷口地区以外からも多くの方が参加し植樹した

目指すは「まるで森のような園庭」 ケヤキ・トチ・ヤマボウシを植樹

おじいちゃん・おばあちゃんを招待した収穫感謝祭が10月29日、認定こども園めぐたまで開かれ、ミニ運動会や餅つきを通し、園児らは秋の恵みを全身で楽しみました。園庭では、木の存在を感じながら木陰でゆったりと外遊びができるようにと、ケヤキ・トチ・ヤマボウシを1本ずつ植樹。「まるで森のような園庭」を目指すこの取り組みを、山形県みどり推進機構が支援しています。



▲おじいちゃんと一緒に楽しく植樹「早く大きくなあれ！」

まちの わだい



身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)

最上川さくら回廊事業 旧谷口分校跡地に19本を植樹

11月2日、旧谷口分校跡地を会場に、山形新聞・山形放送の8大事業「最上川さくら回廊」の植樹式が開催されました。西郷地域のほか町内外から約50名が参加し、オオヤマザクラ19本を植樹。笹原善一さん（谷口）が「分校が焼失してからは、住民が集まる機会も少なくなっていた。桜の植樹によって、いつまでもこの地が集いの場となれば良い」と植樹者を代表してあいさつされました。

▼調理時はレストランフォレストの工藤シェフの目が光る



明安小児童が地元産品で商品開発 ミニトマトと落花生でデザートを開発

明安小学校の5・6年生が、総合学習の一環として地元産品を使ったデザートづくりに挑戦しました。材料は昨年使用したミニトマトに加え、町で産地化に取り組む落花生を追加。10月23日には、考案したデザートを児童らが自ら調理し、生産者らが試食しました。採用されたタルトやレアチーズケーキなど4品が、レストランフォレストにおいて11月限定でランチとともに提供されました。